

光鯢会だより

第24号 [平成30年7月]
発行 | 光鯢会会長 小野徹郎 (S43)
本部長 | 井戸田秀樹 (S58)
連絡先 | 夏目欣昇 (H5)

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町 名古屋工業大学 社会工学科 建築・デザイン分野内
Mail | koukokai@archi.ace.nitech.ac.jp Tel | 052-735-7967 HP | <http://koukokai.jp/home>

I | 大学は今

□本部長挨拶

井戸田秀樹 (S58) 名古屋工業大学教授

光鯢会会員の皆様方におかれましては、ますます健勝のこととお慶び申し上げます。

光鯢会では、光鯢会賞の授与、名簿の発行等の従来の会員サービスに加え、会員のキャリアサポートとしての「光鯢会ジョブマッチングサービス」、O B直伝のインターンシップ「光鯢会ネットワークキャンパス」を充実させてきました。特に「光鯢会ネットワークキャンパス」では、学部生から大学院生まで幅広い年の学生が東京で濃密な3日間を過ごし、参加した学生のキャリアアップに貢献しています。学生時代から光鯢会との繋がりを実感してもらうことで、卒業後の光鯢会への積極的な参加と会費納入率のアップに結びつくことを期待しています。

さて、昨年度から光鯢会会長に就任された名工大名誉教授の小野徹郎先生は、このたび日本建築学会の名誉会員に選ばれました。名誉会員は、建築学会会長等、学会に貢献した方が選ばれ、現名

の会員は86名です。今回の名誉会員には、前学長の中島正愛先生、光鯢会特別会員の高橋鷹志先生をはじめ、建築家の磯崎新氏、伊東豊雄氏など、蒼々たる先生方13名が選出されています。5月に開催された光鯢会総会+懇親会では同級生の内藤幹事から花束が贈呈されました。

今後とも、光鯢会会員の皆様のさらなるご支援をよろしくお願い申し上げます。



□学科長挨拶

石松丈佳 (特) 名古屋工業大学教授



した。何卒宜しくお願い申し上げます。なお、建築・デザイン系副主任として兼田敏之教授、創造工学教育課程長として、井戸田秀樹教授が活躍されています。

教員一年間の動向としては、北川啓介准教授が教授に昇任されました。全学の役職ではダイバーシティ推進センター長として藤岡伸子教授が活躍されています。建築・デザイン系は、一昨年からの全学再編と新カリキュラムの年次進行の真っ只中 있습니다。「大括り」の学科である社会工学科

今年度、社会工学教育類、建築・デザイン系主任を務めることになります。

に環境都市分野、経営システム分野とともに一つの分野として位置づけられ、しかし分野ごとの独立性を保ち続け募集を行っています。(定員70名)。

本年の学部入学者は79名。うち国費(相当)外国人留学生が1名、私費外国人留学生1名で女子学生が26名となっております。また3年次編入は5名おります。大学院博士前期課程、後期課程には108名、2名が入学しました。

建築・デザイン系の2年次は、建築系56名、デザイン系18名に分属されました。また、一昨年発足した6年一貫の創造工学教育課程(定員100名)においても建築・デザイン主軸の学生9名が分属されており、建築・デザインの学生とともに専門科目を学んでいます。就職活動状況も概ね好調で最終的には希望者全員が決定するものと思います。光鯢会の皆様には、引き続きのご寛容とお力添えを賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

□学生の活躍

夏目 欣昇 (H5) 名古屋工業大学准教授

この一年の学生の活躍を報告します。本年から光鯱会奨励賞が創設され、総合成績、演習課題の優秀者13名に授与されました。本文では卒業設計・制作の優秀者に与えられた光鯱会賞並びに学科長賞の概要を報告します。

■光鯱会賞 松岡竜生君（建築系）^{*1} 大自然が屋内から遮断される時代において、美しい四季のある日本としての出迎えのしつらえを「境界」そのものが建築に変貌するときに感じさせる圧倒的自然美により数多の人間の心根にそれを再認識させます。それは、「太陽」に晒され続けた岩石が「風」により破壊され、「水」により角が取れ、美しい曲線を描き始めるように。そこに存在する大自然の現象が具象化することで、人はそれが「門」なのだと初めて気付くのです。

■学科長賞 長谷川理恵さん（デザイン系）^{*2} 「様々な素材の糸で座面の装飾を楽しむ」をコンセプトに椅子の座面を制作しました。意匠性・耐久性・通気性や保温性のある糸を組み合わせ、自由に巻きつけることで模様や質感を楽しめる座面を目指しました。

■光鯱会奨励賞

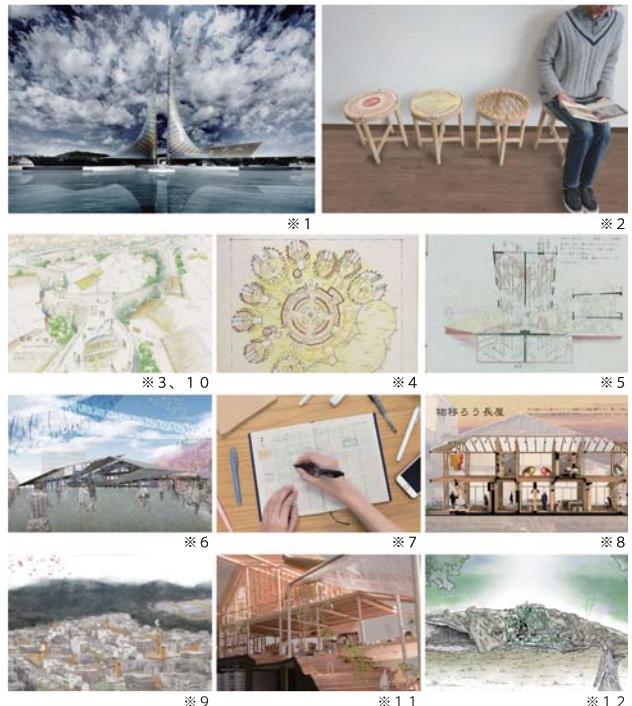
学部4年（総合建築）梅田萌さん、芹川拓人君（総合デザイン）木村ななみさん

（演習建築）井戸田梨菜さん、松岡竜生君（演習デザイン）長谷川理恵さん

学部3年（総合建築）中山真由美さん、志岐祐也君（総合デザイン）鈴木篤也君

（演習建築）大石理奈さん、志岐祐也君（演習デザイン）鈴木篤也君

学部2年（高度工学）加藤彩花さん、杉本夕佳さん（創造工学）河内遙さん



■他の優秀者

JIA 東海卒業設計コンクール金賞※3 伊藤誉君、第9回修成建築設計競技「リラックスできる図書閲覧スペースのある地域集会所」（木造平屋建て）最優秀賞※4 佐藤直喜君、第64回日本大学全国高等学校・建築設計競技「ひろがる家」奨励賞※5 佐藤直喜君、デザイン女子No.1 決定戦デザイン女子 No.1 決定戦特別賞※6 渡邊有さん、インテリア・プロダクト部門3位※7 伊藤菜生さん、第2回 WOOD FRIENDS 住宅設計学生アイディアコンペ入選※8 伊藤誉君、日本建築学会設計競技 支部入選※9 伊藤誉君、NAGOYA ArchiFes 2018 中部卒業設計展 最優秀賞※10 伊藤誉君、模型賞※11 稲垣好美さん、建築新人戦 100 選※12 山口裕太君

□鈴木頒次賞

夏目 欣昇 (H5) 名古屋工業大学准教授

創造的かつ機能的にも卓越した建築作品と、その設計者をたたえることを目的として発足した鈴木頒次賞も節目の5回目を迎え、今回から名工大並びに光鯱会で主催する運びとなりました。

大賞は、恩田聰氏・青柳創氏：（株）日建設計「On the water」^{*1}、優秀賞は、越野達也氏：（株）竹中工務店「ニフコ YRP 防爆棟・実験棟」^{*2}、小川大志氏・高橋勉氏：（株）NTTアシリティーズ「MIZKAN MUSEUM」^{*3}、佳作は、窪田研氏・小林順氏：（株）山下設計「高崎アリーナ」^{*4}、吉岡有美氏：（株）竹中工務店「新柏クリニック」^{*5}、伊東宏和氏：（株）日建設計「京橋エドグラン」^{*6}の6作品が受賞されました。

授賞式は2017年10月31日、岡崎信用金庫にて、100余名の観衆を集めて受賞者によるプレゼンテーション、審査員の講評、仙田満先生の講演会が行なわれました。また合わせて、岡崎信用金庫資料館（鈴木頒次設計：旧岡崎銀行本店）の景観重要建築物の指定書交付式も行われました。その資料館において、本賞特別企画として、受賞作品並びに学生作品展示会を開催いたしました（10/14～11/26）。その最終日には、横山正登氏、栗原健太郎氏、岩月美穂氏、稻垣淳哉氏をお招きして学生展示の講評会が行なわれました。



審査員と受賞者の集合写真

II | 卒業生は今

□本部

松井 健 (H15) 鹿島建設(株)

鹿島建設に入社して、現在13年が経過しました。施工系社員として入社して以来、多くの建物の建設に携わり、現在は本社建築技術部で建築環境に関する技術コンサル業務を担当しています。

建設現場での経験を思い出してみると、超高層集合住宅、オフィスビル、学校、歴史的建築物の復元など、多種多様な建物と出会い、それぞれに多くの「思い出」があることに気づきます。最近では、伏見駅近くの御園座共同ビルの現場に配属され、念願であったホールの建設に、主体となって携わることができました。学生時代、オーケストラ部に勵んでいた私にとって、ホールの建設は一つの目標でした。

そんな希望を実現できたのも、強く希望を発信し続けた事と、今の会社だからであると思っています。

特に、弊社技術研究所への2年間の研修制度を利用し、建築音響について深く学ぶ機会と、広い知見と人脈を得たことが大きなきっかけであったと感じます。

建設業界には、様々な会社がありますが、せっかく総合建設業を選んだのであれば、多彩な経験ができることを「働きがい」として、多くの思い出を作りながら、働くことができればと思っています。



松本 拓也 (H24) (株)伊藤建築設計事務所

大学院修了後現在の会社に入社し、現在社会人5年目に突入しました。1~2年目はプロポーザルで特定された保育園の設計・監理を主に担当し、その後設計に携わった物件としては信用金庫の本店や消防出張所等が竣工しました。現在は中学校の設計を担当しています。担当物件の用途や規模の振れ幅が大きいので毎回一からのスタート…という感じですが、学んできたことの蓄積が少しずつ活かせるようになった気もしています。

そんな中、いくつかの仕事が重なり、ある程度のスピードが求められてくると、つい手馴れた方法に決め打ちして作業を始めてしまったり、前回の仕事を下敷きにして楽をしてしまったりしそうになりますが、建築にはスケッチ・模型・3Dなどたくさん

のスタディ方法があり、一つとして同じ条件は無いので、手段を選ばず、常に新鮮な気持ちで新しい建物に向き合っていきたいと思っています。



初山 恵莉 (H19) トヨタホーム(株)

2007年に入社して以来、ずっと商品開発部にいます。構造、内装・設備の設計を経て、3年前より商品企画の担当です。昨年は海外建築視察のメンバーに選抜されドイツに10日間行きました。目的は、最新の省エネ住宅を知る・デザインへの知見を深めることです。

ドイツでは、省エネ建築制度についてセミナーに参加しました。日本よりかなり厳しい基準で新築・既存住宅の省エネ性能が管理されており、暖房費は第二の家賃という考え方で一般の方でもエネルギー消費について関心が高いことがわかりました。ディテール面では、樹脂サッシよりもさらに断熱性の高い木サッシの断面模型を見て、その精密な技術に驚きました。

デザインの面では、デッサウのバウハウス校舎をはじめ、ユニテダビタシオンなどモダニズム～近代を中心見て回りました。特に感銘をうけたのが、ブルーノ・タウトの馬蹄型集合住宅です。住んでいる人だけでなく、その地域の人たちに愛され大切にされている建築というのは、素晴らしいと感じました。この経験を今後の仕事に生かしていくべきだと思っています。



上：馬蹄型住宅、右：バウハウス校舎

山本 浩司 (H28) 村田機械(株)

平成 28 年に大学院を修了後、村田機械の研究開発本部デザインチームに配属され、今年で 3 年目になりました。弊社では、繊維機械、工作機械、シートメタル加工機、情報機器、自動倉庫や無人搬送を中心としたロジスティクス・FA システムなどを扱っております。これらを支える 5 つの事業部と連携して製品デザイン・ブランディングを行うことがデザインチームの業務になります。

通常の技術職は半年から一年ほどの技術研修がありますが、私の場合は入社後すぐの配属となりました。最初の大きな仕事は展示会用の繊維機械のデザインで、リサーチからコンセプトイメージ作成、モデリング、模型作成など学生の頃にやってきた手法やプロセスをそのまま業務に活かすことができまし

た。ただ学生の頃と大きく異なるのは、提案したものを本当に形にするという点でした。カバーリングの構成はもちろん、板金なら溶接かネジ留めか、ネジを見せない工夫、角や端面の処理、色、塗装、表面処理などなど…悩みごとは山ほどありましたが、今では良い経験ができたと思います。この時、デザイナーの力量というのは「普段からどれだけモノをよく見ているか」に現れることをしみじみと感じました。今でもその初心を忘れず継続していくこうと思っています。



□OBOG交流会アンケート

岩井一樹 (H21) トヨタホーム(株)

12月5日に開催された第12回OBOG交流会のアンケート結果をご紹介いたします。学部3、4年生、大学院生を対象に、OBOGから仕事の内容や職場の様子、就活のアドバイス等を紹介し、今後の進路の参考にしてもらうことを目的として毎年開催しているイベントで、今回は67人よりアンケートを取得しました。

全体の満足度は5段階評価で上位2つの「やや満足」・「満足」を合わせる85%で、例年通りの高評価でした。自由記述では「このような会を開催いただきありがとうございます」「とても良かったです」といった意見が多く、良い機会になっているようです。またその中でも「ぶっちゃけた話が聞けて良かった」という意見も多く、学生により近い立場であるOBOGから包み隠さない紹介や実際に働いている感想、就職活動の経験が聞けることが貴重な経験

となっているようです。

今後聞きたい分野については「ゼネコン」「意匠設計」「ハウスメーカー」が例年通り多い傾向でした。その中でも近年「その他」分野を記入する学生が増えており、学生の就職先も多様化していることを実感します。

「また来年も開いてほしい」といった意見も多くあり、今後も学生のニーズを反映しつつ有意義な会を継続して実施していきたいと考えています。



□春の見学会報告

鈴木 浩章 (H21) (株)竹中工務店

5月12日(土)に平成30年度の春の見学会が「鶴舞公園の歴史」と題し、名古屋市公会堂および鶴舞公園にて実施されました。晴天に恵まれ、45名の方に参加いただきました。

始めに、井澤知旦氏(名古屋学院大学教授)より、都市計画的観点から鶴舞公園および公園内の建築物の歴史的背景についてご説明をいただきました。その後、河田克博氏(名古屋工業大学教授)より、建築的観点から公園内の建築物(噴水塔、奏楽堂、普選壇、名古屋市公会堂、鶴々亭)のデザインの特徴をご紹介いただきました。

次に、今回の見学地である名古屋市公会堂の工事計画について、横山氏(鴻池組)からご説明をいただきました。

その後、鴻池組様のご厚意により、改修工事中の名古屋市公会堂内部の見学を行いました。集会場内部には総足場が組まれており、普段見ることのできない天井裏の見学も出来、貴重な体験をすることができました。

見学会後は大学へ戻りながら河田教授から公園内巡りながらの建築物のご説明をいただきました。

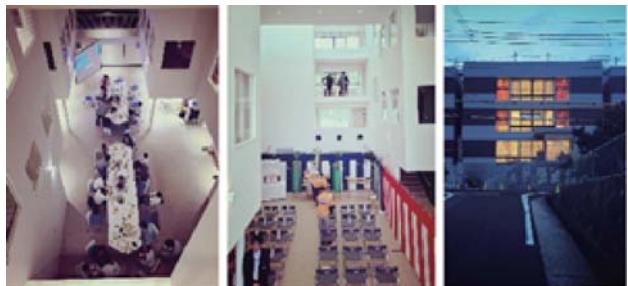


□関東支部

岡 慶一郎 (H21) (株)久米設計

H23年に京都工芸繊維大学大学院を修了し、現在意匠設計8年目です。未だ勉強中の身であることを承知で書かせていただくと、「ラフに構えること」を大切に日々送っています。これは設計の内容にも言えますし、生活そのものにも言えると思います。立場上、部下を付けてもらうことが最近増えましたが、僕ら若い世代は変に大人ぶる傾向があると思います。スタディをすると、すぐにグリッドを引いて計画したり、法規や条例に血眼になったり、ディテールの話をしたり。建築を成立させるためにはどれも大切な要素であることには変わりありませんが、僕らはもっと自由に建築を語る、新しい場や価値を生み出すことに全力を傾けるべきだと思います。名工大の建築教育は良

い意味で自由だと思います。そこで培われた柔らかい発想や楽しい建築の在り方を、そのままドライブさせて社会に還元できたら、それが一番いいことなのだと思います。自由な建築は社会を元気にするし、豊かにするとと思うからです。社会人でいる以上、大人になるのは簡単です。もっともっと子供になるための努力を続けていきたいです。



四宮 健次 (H23) (株)戸田建設



平成23年に大学院を終了後、戸田建設に計画設計職として入社し、今年で入社8年目になります。入社後の1年間は大学の寮とデイケアセンターの施工管理を経験しました。弊社では、設計職入社でも1年間は現場研修があります。研修では建物を建てる手順や設計者として建物を建てる上で必要な図面としての情報がどのようなもののかを学びました。

2年目からは本社の設計部に配属となり、複数のチームで設計を担当し、オフィスビル・研究所・

生産施設など地方物件を含め比較的様々な用途の設計をしてきました。

平成29年から横浜支店へ異動となり、現在はみなとみらいの研究所の設計を担当しています。設計メンバーには私の他にも先輩・後輩が担当しており、お互いに切磋琢磨しながら日々楽しく設計しています。今後は経験していない用途の設計も行いたいと考えており、私だけの「設計者としての特徴」を見つけていきたいと思います。



野村 朋広 (H6) (株)環境デザイン研究所



本学修士を修了後、(株)環境デザイン研究所に入社し、早くも21年になります。最初の仕事は、幸運にも地元の岐阜県サイエンスワールドでした。基本設計から実施設計、監理まで約3年間ひとつのプロジェクトを通じ、どのように設計者が社会とかかわってゆけるかということを経験させていただきました。当時は社の教育方針として、入社間もないスタッフが現場常駐するという形をとっており、私は入社1年半で現場常駐しました。図面や机上の知識ではなく、直に建築と向き合うことによって、理屈ではない建築の生の姿を学んだことが、私の大きな礎になっています。

その後、水族館、知的障害者施設、を担当し、10年目にプロジェクトマネージャーとして文教施設を担当しました。13年目より、複数のプロジェクトを担当するゼネラルマネージャーとして大学、図書館、図書館ホール複合施設、序舎、スポーツ施設や、家具、民間のテナント内装設計まで、さまざまな分野を横断する仕事を担当させていただきました。近年はリオパラリンピックや、NYのスポーツ施設の調査に同行させていただき、幅広い知見を得る機会を頂き、現在は某県文教施設の設計を主として、スポーツ施設、民間テナントビルなどの物件をマネジメントしております。



□関西支部

小山 明 (S59) サンヨーホームズコミュニティ(株)

住宅設計に携わりたくて住宅メーカーに就職したはずなのに、気が付けばマンション管理会社の代表となり、7年が経過しました。親会社が分譲するマンションの管理会社として設立され、お客様の一生のパートナーとして様々なお困りごとに対応することをミッションに、管理組合の運営やコミュニティ形成支援、建物の維持管理にかかる清掃や設備点検に加え、専有部のメンテやリフォーム、火災保険の付保、売買・賃貸にかかる仲介など、管理会社として、管理の周辺事業の強化が重要だと考える内にリハビリ型のデイサービスや小規模保育園の運営にも手を染めてきました。特に保育事業は、新築分譲時に販促のため組合運営の認可外保育園を併設するマンションなどがありましたが、費用負担に耐えきれず継続できない事例が散見される中、当社も初めての保育園を大型マンションに併設して認可外で始めま

した。はじめは6名のお子様をお預かりするだけで、とても経営できる状況ではありませんでしたが「小規模保育事業」の制度がスタートし、認可を受けたことで今では満員御礼の状態で、関西と東海に英語保育園を含め12園を運営しています。2020年度末までに、企業主導型保育事業の運営受託を含め、40園規模にすることを目標に、子供たちの笑顔に癒やされながら取り組んでいます。



生本 孝幸 (H1) (株)大本組



平成元年に卒業後、岡山に本店、東京に本社を構えるゼネコンの大本組に入社し、30年目に突入しております。入社後20年あまり現場の施工管理に携わっておりました。支店配属というものが無く、都度、全国各地の現場に配属になり、北は青森県から西は福岡県まで全国を転々としました。各地方でいろいろな方々の思いやりと厳しさを感じながら、「使う人から愛される建物を」の想いで建築に携わってきました。そろそろ自分の携わった建物が取り壊されるという話も耳に入るよう

になり、寂しさも感じています。

平成21年より建築部技術課に配属になり、社内検査や現場の相談事の引受けといった業務をこなしています。二人しかいない課ですが、実はもう一人の課員も名工大卒です。名工大卒コンビで西日本の現場を担当し、クレームの無い建物を造ることをめざして、現場の支援を行なっています。

平成卒ということで、光鯱会や名古屋工業会に出席した時には若い部類に入り、いつも一言発言を求められていきましたが、最近やっと年配の部類に入っていました。積み重ねた経験を生かし、これから業務に努めてまいりたいと思います。

今後も岡山から光鯱会関西支部の会合に参加させていただき、交流を深めたいと思いますのでよろしくお願いします。

小川 隼平 (H28) (株)鴻池組

大学を卒業して、(株)鴻池組に意匠設計として入社してから3年目となりました。

入社1年目は、現場監督として工場とマンションの現場管理をさせていただきました。分からぬことが多い、上司の方や協力会社の方々など様々な方に教わりながら現場管理を行いました。

2年目からは、建築設計部に配属となり、マンション等の設計をさせていただいております。現場管理で培ったものを設計に活かそうと意気込んだものの、現場管理とはまた違った視点、知識が必要であり、こちらでも分からぬことが多い、上司や現場でお世話になった方々に教わりながら設計しております。

3年目の現在は、設計だけでなく2年目から設計させていただいているマンションの監理をしております。現場が着工して間もないですが、問題が山積みで、頭を抱えております。

まだまだ分からぬことだらけですが、毎日の業務を大切にして精進していくことを思っています。



現場管理させていただいたマンション

III | 光鯢会は今

□本部だより

小野 徹郎 (S43) 光鯢会会長／名古屋工業大学名誉教授



会員各位にはそれぞれのお立場で御活躍のことと思います。伝統ある光鯢会の会長を岡本会長の後を受けて昨年から仰せつかっています小野です。名工大在職中は光鯢会の幹事長を長く務めさせていただき、それなりに会のことは理解していたつもりでしたが、やはり時間の経過の中で会の運営もかなり変わってきており、この1年間はバタバタして特段のこともできずに過ぎてしまいました。幹事長時代、多くのOB、OG、先輩諸氏とお付き合いさせていただきましたが、そうした方々も時とともに変わっておられ幾分戸惑っています。つい先日も大先輩である浦野三男先生が95歳でお亡くなりになりました。個人的には名工大に戻ってきた時からお心に懸けていただいており、惜別の念を禁じ得ません。この場を借りてご冥福をお祈りいたします。

大学の同窓の結びつきは若い時はそれほど必要だと

は思わないのですが、ある年齢になるとこの結びつきが掛け替えのない財産となっていることに気付きます。その核になるのはもちろん母校です。私自身長い間母校名工大にお世話になってきましたので、会員と大学との連携を深めるためのお役に立てばと思っています。

しかし会の運営の基本となるのは会費です。今、光鯢会の会費納入率は20%を切っています。会費は年3,000円です。月に直しますとわずか250円です。コーヒー1杯の代金にもなりません。納入率40%突破を目指してこれから方策を立てていきたいと思いますので、是非会員の皆様には会費の納入をお願いいたします。この点に関しては関東支部、関西支部の皆様方にご協力をお願いいたします。

同窓会としては90周年の折はじめた名工大建築フォーラム、100周年を期して設立した鈴木禎次賞、関戸さんのご厚意で生まれた東京ネットワークキャンパスや在学生に対する支援の一環としてのOBによる講義など、光鯢会と社会、大学との結びつきを深めています。今後ともいろいろな面でのご支援をお願いいたします。

高木 晃二 (S57) 前本部幹事長／(株)大林組



昨年度までの2年間、本部幹事長をさせていただきました。これまで光鯢会行事にほとんど参加したことのなかった私がこの大役を全うできたのも、先輩諸氏、諸先生方、そして本部幹事をはじめとする多くの会員の方に支えていただいたおかげと感謝しております。前幹事長の小山先輩から、それまでの幹事会議事録や幹事会次第を引き継ぎはしたもの、どう進めていけばいいのか全く分からずにいた中、長年幹事をされている皆さんから多くの意見をいただき、助けていただきました。光鯢会行事を主催し参加する中

で、見学会や懇親会に先輩方をはじめ多数参加いただくことには感謝とともに、そういう行事を楽しみにしていただいている、しっかり続けていかなければと思いました。一方、光鯢会だよりへの投稿やOB/OG交流会などを通じて、若い方々にも積極的に参加いただきました。

昨年度から、毎月第1火曜日の幹事会の最初30分程度を、先生方のご協力をいただき、イブニングレクチャーとして研究されている内容を紹介いただいており、その様子は週末までに光鯢会のフェイスブックに掲載されています。本部幹事は光鯢会をより身近に感じられるよう頑張っています。更なるご協力をお願いいたします。私も微力ながら引き続き応援させていただきます。

中薦 昭彦 (S58) 本部幹事長／名古屋市役所

5月12日（土）に開催されました評議会にてご承認いただき、高木晃二前幹事長のあとを受け、今年度幹事長を務めます中薦です。どうぞよろしくお願ひいたします。

学内4号館で開催された評議員会では、昨年度の活動及び会計報告、本部役員・幹事の交代、今年度の活動計画及び予算についての審議がなされ承認されました。その後2号館に会場を移し83人の参加を得て総会を開催し、評議員会の報告の後に、関東支部・関西支部それぞれから活動報告がされました。本部役員は37名中11名が新たに任命され、今年度の活動を開始しました。

懇親会は、例年通り大学会館2階を会場とし催され、25人の新人会員を含め、総勢92人に参加していました。総会では、大学の近況報告、新人会員の自己紹介などが行われる一方で、懇談の時間では、新入会員が積極的に先輩会員から仕事の内容、職場などの生の情報を聞こうとする姿勢が見られました。一部

には二次会にも参加し更に親交を深めた新入会員もいて、後日こうした学生達から、有意義な懇親会であったとの声を聞くことが出来たのは私たち幹事としても大変嬉しく感じた次第です。このような機会を通じて、光鯢会を通じて新たな縦の関係が築かれることを期待しています。

大学は今年開学113年、光鯢会は発会111年を迎えます。伝統ある当会に所属していることを誇りに思い、様々な交流の機会を通じて少しでも本会を盛り上げていきたいと思います。



□関東支部だより

工藤 利昭 (S61) 関東支部長／鹿島建設(株)



昨年から関東支部長を務めております工藤利昭と申します。関東支部の伝統を継承しつつ、支部の相談役・幹事の方々と一緒に、より良い関東支部の姿を議論し今年の活動に反映してまいりたいと思います。

今年の大きな行事は、5回目となる名工大建築系ネットワークキャンパス in Tokyo 2018 と、毎年恒例の関東支部総会・懇親会です。

ネットワークキャンパスは8月30日(木)～9月1日(土)に開催します。昨年から大学の単位として認定されることになり、今年は3日間のプログラムをより充実させるべく、母校の先生方のご理解・ご協力を得ながら、大学院のプログラムと一部連動させる計画を検討することになりました。

秋の関東支部総会・懇親会は、今年は11月30日(金)に大手町サンケイプラザにて開催いたします。正式なご案内は先となりますが、関東支部全体として会員が集う唯一の機会ですので、是非、皆様

のご参加をよろしくお願い申し上げます。

紙面で述べるには気が重いのですが、直近の課題は財政です。昨年度からネットワークキャンパスの活動が加わり、準備等に係る費用を含めると昨年度の関東支部の収支は赤字となり、次年度繰越金が前年よりも減る事態となりました。今年度は収入の伸びが期待できない中、とにかく支出を抑えながら活動を進めますが、収入増の方策については皆様のお知恵をお借りしたいと思います。

もう1つは長期的な課題です。かつて宮野先生から「関東支部は関東地方の会員のことだけを考えていけないよ。すぐには取り組めないかも知れないけれど、是非とも、北海道・東北を含めて東日本全体を意識しながら活動してもらいたい」との旨のお言葉をいただきました。関東支部総会・懇親会にお越しただくことはできなくとも、葉書・メール・電話等を使って、東日本に在住の会員の方々と連絡を取り合いながら、次の活動につなげることができないか考えたいと思います。

〒107-8502 東京都港区赤坂 6-5-30

鹿島建設(株)建築設計本部 (03-6229-7229)

支部長 工藤利昭 (S61)、副支部長 鈴木孝彦 (S59)、

副支部長 恒川真一 (H02)、連絡担当者 大島穣 (H12)

□関西支部だより

梶山 和生 (S56) 関西支部長／(株)竹中工務店

今年度から関西支部長を努めますS56卒の梶山和生です。同期の坂口輝吉さんが副支部長、長谷部斎さんが事務局長という新体制でスタート致しました。近年、新入会員が関西支部に配属されるケースが少なくなる傾向があります。そのため、定例会に気楽に参加でき、何でも話せる雰囲気を作つて、特に若い会員の拡大と活発な支部活動の展開を念頭において取り組んでいます。この想いが通じたのか、若い会員の積極的な参加もあり、定例会参加人数が30名を超えることとなり、今後更に参加者が増えるように努めています。

第1回定例会は2月2日(金)、梅田1丁目1番地計画(阪神百貨店建替工事)の設計概要、施工計画と実施について中島正人(H9)さんに講演して頂きました。第2回は4月6日(金)、最近の医療施設の動向を利守洋祐(H11)さんが講演され、医療施設の進展に伴い合理的な施設に変わっていくことを興味深く聞きました。第3回は6月1日(金)、母校から河田克博名誉教授が来阪され、母校の成り立ちと、鈴木禎次、武田五一の生涯と作品を通して、近代建築にみる関西と東海のきずなについて講演し

て頂きました。忘れていた輝かしい名古屋工業大学の栄光を改めて知る機会となり、名門復活へのPRの必要性を痛切しました。また、大林組掛布勇(S51)専務執行役員大阪本店長から経歴と名工大への想いについてのお話を頂きました。

今後、8月3日(金)には、大島弘資(S56)さんに中国での起業と現在の中国建築界の実情を講演して頂きます。さらに、鴻池組 蔦田守弘(S52)代表取締役社長のお話を頂く予定です。10月6日(土)には支部総会・見学会を京都府大山崎にて開催します。見学する聴竹居は建築家藤井厚二が手掛けた昭和初期を代表するモダニズム建築で、重要文化財に指定されています。大山崎山荘美術館は昭和初期の山荘を生かした本館と、建築家安藤忠雄設計の別館からなる名建築です。全国の光鯉会の皆様におかれましても奮って参加をお願い致します。

これからも光鯉会関西支部の活動に対し、積極的なご参加とご支援を期待しております。

〒541-0053 大阪市中央区本町 4-1-13

(株)竹中工務店 大阪本店 (090-3166-8456)

支部長 梶山和生 (S56) 副支部長 坂口輝吉 (S56)

事務局長 長谷部斎 (S56) 連絡担当者 中瀬知幸 (S59)